

『颯とあそび』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

## 子どもたちの教育は地域全体で担う !!

### 第21回 南都留地域教育フォーラム

南都留地域教育推進連絡協議会（会長：白井明彦東桂小学校長）は、11月2日(金)に富士吉田市立下吉田第二小学校・下吉田コミュニティーセンター・南都留教育会館において「平成30年度南都留地域教育フォーラム」を開催しました。

今年度は『子どもたちの教育は地域全体で担う』～みんなで育む地域連携・地域交流～をテーマに、全体会及び6つの分科会を行い、当日は地域の子どもの育成に関わる各団体から約300名が参加しました。

全体会の基調提案では、「子どもたちが安心して学べる環境づくりと、心身共に調和のとれた子どもたちの成長を願い、本日ご参集の様々な立場の皆様からのご意見をいただくなかで新たな『連携活動』を創造する」ことが提案されました。アトラクション「光っ子連携コンサート」では、富士吉田トランペット鼓隊による演奏披露がありました。小学校1年生から高校生までの隊員同士が教え合いながら、地域とのつながりを大切にして46年間活動してきました。この日も息の合った音色を会場中に響かせました。

当日は、公私ともにお忙しい中、教育フォーラムにご参加いただきありがとうございました。皆様からいただきましたご意見・ご感想が生かせるよう、今後とも「連携活動」をキーワードとする地域教育推進に生かしていきたいと考えております。今後もお力添えをいただけますようお願いいたします。



教育フォーラムの様子は、下記のアドレスからご覧いただけます。  
<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/minamituruforumtop.html>

**あそびながら科学を学ぼう !!**

## 2018わかつるサイエンスフェスティバル



県立都留高等学校（渡邊信介校長）と北都留地域教育推進連絡協議会（地域教育「明日の風」）（会長：石井由己雄大月市長）は、10月6日（土）に都留高校において「2018わかつるサイエンスフェスティバル」を開催しました。

本フェスティバルは、平成17年度より地域の児童のみなさんに、科学の実験・観察を通して、その「不思議さ、おもしろさ」を体験し、「科学への興味・関心」を高めてもらおうと企画・開催され、今回で14回目を迎えました。

参加対象は南北都留地区の小学生とその保護者で、当日は児童・保護者合わせて72組153名が参加しました。開祭式に続き、前半は3つのグループに分かれて「チャレンジブース」を体験。「ホバークラフトをつくろう」「せんたく糊からスーパーボールを作ろう」「手作り顕微鏡で細胞を観察しよう」の3種類の科学実験にチャレンジしました。後半は、「化石をとりだそう」「-190℃の世界を体験しよう」「カラフルいくらをつくろう！」など14ヶ所の「遊びの広場」で、科学の不思議さやおもしろさについて学ぶことができました。

実験の指導や説明は、1・2年生約70名の生徒が担当し、子ども達にわかりやすく、丁寧に説明していました。参加した児童からは「今まで知らなかった科学の事を詳しく教えてくれて、とても楽しかったです。」保護者からも「子どものえ～なんて？？の眼が見られて良かったです。親として参加しても、とても楽しかったです。家でもできるものは是非また、親子でやってみたいと思いました。」「高校生の対応がとても丁寧で楽しく学ぶ事ができました。」などの感想が聞かれ、充実したひとときを過ごしました。



### 学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表 !!

## ひばりが丘高等学校 生活体験文発表大会



県立ひばりが丘高等学校（松野正士校長）では、8月31日（金）に生活体験文発表大会を開催しました。この発表会で選抜された代表者は、山梨県定時制通信制教育祭で発表します。昨年度の代表者は全国大会に進出し、上位入賞者を果たすことができました。

生活体験文発表大会の目的は、日々の生活や体験を文章で表現、発表することにより、自己を見つめ直すきっかけをつかみ、かつ、多くの人々に感動と励ましを与えることです。当日は、各学年・クラスの代表者11名が、「成長」「福井

県永平寺の参禅体験」「私の挑戦」「自分のペース」などのタイトルで、自らの貴重な体験を発表しました。

それぞれの発表では、クラスの代表者としての意識を持って発表している様子が見え、学校での様子、アルバイト先での出来事、部活動での全国大会進出など内容は様々でしたが、どの発表からも一つの体験から色々な意味を見出し、自分の成長の糧に出来ていることが感じられました。

発表を聞いていた生徒達も、真剣に耳を傾けていました。コミュニケーションの出発点は、まず人の言葉を聴く態度を養うこと。そういう観点でも、言葉を使って人に伝えることの大切さを学ぶことができたようで、いつか社会に出たときに、きっと役立つ経験となりました。

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。 ※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841

「一人一人に合った支援のために!!」

## 南都留特別支援教育研究会学習会



南都留特別支援教育研究会(会長：東桂中学校渡邊昭男校長)が、今年度の活動をスタートしました。今年度の事務局は東桂中学校が担当します。

5月14日(月)に行われた第1回研究会では会員の自己紹介に続き、今年度の活動計画、8月9日(木)に開催される「山梨県特別支援教育研究大会」の役割分担等について話し合われました。また、第2回研究会を7月3日(火)に実施しました。まず、「山梨県特別支援教育研究会」に向けて、提案者や運営に関わる役割分担の確認を行った後、3ブロックに分かれて実施する「青い麦の子大会」に向けた打合せをブロックごとに行いました。第3回研究会は8月28日(火)

に実施、協議事項後の学習会では、ふじざくら支援学校5名の先生をアドバイザーにお招きして、グループ学習を行いました。グループ学習は、「進路選択・学習支援」「コミュニケーション」「ストレスマネージメント・メンタルトレーニング」「合理的配慮」の4つのグループに分かれ、事前に先生方の日頃の悩みや疑問などをアンケートにとり、それについての話し合いが行われました。各グループにアドバイザーの先生も加わり意見交換が活発に行われました。最後に話し合いの結果がまとめられ、中身の濃い学習会となりました。次回は、2月19日(火)に第4回研究会が予定されています。



**交流と体験的な学習で、楽しいひととき!!**

## 青い麦の子大会

南都留特別支援教育研究会では、「児童・生徒の交流と体験的な活動を通して生活能力を高めるとともに、協力し助け合うことの楽しさを学ぶ」ことを目的に行われている「青い麦の子大会」を3ブロックに分け、吉田ブロック及び湖畔・忍野・山中ブロックを9月28日(金)、都留・西桂・道志ブロックを10月12日(金)に開催しました。この大会は、南都留地域の特別支援学級に在籍している子どもたちの交流会で、2日間に児童・生徒135名と、引率の先生129名が参加しました。



吉田ブロックと都留・西桂・道志ブロックは、富士すばるランドフォレストパーク・ドギーパークにおいて実施。また、湖畔・忍野・山中ブロックは富士河口湖町民体育館・ちびっこ広場での実施となりました。

それぞれの会場で、午前中は体育館で開会式や「ふれあい集会」が行われました。一人ひとりが元気に自己紹介をした後は、中学生の司会進行で、ビンゴ・じゃんけん列車・歌などのゲームを楽しみ、他校の子どもたちとの親睦が深まりました。趣向を凝らした「ふれあい集会」で、緊張していた気持ちが徐々に和らぎ体育館内には子どもたちの明るい声が響き渡っていました。湖畔・忍野・山中ブロックでは、太鼓演奏の鑑賞を行いました。祝太鼓團あっぱれの先生方を含めた太鼓演奏者による迫力のある太鼓の響きに、参加した児童生徒は聞き入っていました。その後は、先生方の指導による太鼓体験がありました。楽しそうに太鼓を叩く子どもたちの姿が見られました。

午後は施設の見学、芝生やアスレチックなどで遊ぶなど、普段校内では経験できない体験を、自然の中で思う存分楽しむことができました。参加者は、今まで話をしたことのない人と話をしたり、交流を広めたり、思い出に残る一日となりました。



できっこないをやらなくちゃ『熱く夢を叫べ!』

## (公社) 富士五湖青年会議所 富士河口湖高等学校 人材育成講演会



9月14日(金) 富士河口湖高等学校(田口尚弥校長) 体育館において、(公社) 富士五湖青年会議所(赤池優樹理事長) 主催による人材育成講演会が、講師に(株) 桑郷 代表取締役 韓 成旻(ハン ソンミン) 氏、ゲストに(株) アルプス 代表取締役 金丸滋氏を迎え、「できっこないをやらなくちゃ『熱く夢を叫べ!』」と題して開催されました。

第1部では、韓氏が、感謝の気持ちを持つこと、明るく前向きに突き進むこと、ゆるぎない志を持つこと、人の繋がりを大切にすること等を、小さい頃の様子や奥さんとの出会い、日本に住むことを決めたエピソードを交えながら、熱く語ってくれました。縁あって山梨で会社を営むことになった韓氏は、生徒達に「未来の富士五湖地域を背負っていくのは君たちだ、常に感謝の気持ちを忘れず、熱い志を持って力強く生きていこう! 私も応援する!」と熱いメッセージを送ってくれました。

第2部では韓氏と金丸氏がトークセッションを行い、二人の出会いやフィリピンで行っているJICAの活動などを紹介して、世界を視野に入れて活動する大切さを伝えてくれました。

第3部は「熱く夢を叫ぶ」コーナーで生徒達はもちろん教員や青年会議所の方も夢を叫び、最後に歌手としても活動する金丸氏がギターを弾き、韓氏と「Next Dream」という歌を熱唱してくれました。

そして、講演終了後は全員で「next dream」と叫びながら記念撮影をしました。熱い熱い90分間で、生徒達は今後の人生に大きな示唆をいただいたようです。



## 地域連携 育てた大豆で豆腐づくり!!

### 鳥沢小学校 『豆腐づくり』



10月23日(火) 鳥沢小学校(大石太校長)では、3年生が豆腐づくりを行いました。これは、3年生の総合的な学習と国語の横断的学習として行われているものです。5月から自分たちで育ててきた大豆を収穫し使っています。当日は、地域の方を講師としてお招きして豆腐づくりに挑戦しました。普段、お店に売っている豆腐しか見たことがない、子ども達は興味津々でした。

作業手順は、一晩水に浸しておいた大豆をミキサーでつぶして生豆乳にします。焦げないように、ふきこぼれないように煮ていきます。次に、豆乳を絞り、おからと分け、にがりでごめますがここが一番のポイントでした。その後、型枠に流し込み脱水をして、取り出せば完成です。完成したときは、子ども達から「ウォー」という歓声があがりました。どの作業にも、子ども達は率先して、仲良く取り組んでいました。完成後は、みんな大満足の顔をしながら、豆腐とおからをおいしそうに食べていました。

子ども達からは、「買った豆腐より、自分で作った方がフワフワ、モチモチでおいしいです。」「つるつるしてないで、でこぼこだけれど切りやすいし、しょう油もしみこんでおいしいです。」「初めておからを食べました。捨てることなく栄養があっておいしいです。」など感想が寄せられました。講師からは、「子ども達の反応が良くて、大豆の栄養についても伝えられて教えていて楽しかった。」との話がありました。今後、この豆腐づくりは、国語の学習「すがたをかえる大豆」につながっていきます。更に学習が深められ、11月の学習発表会で発表する予定です。



技を磨き、心を鍛える！！

## 伊藤知治教士八段剣道教室



北都留地域教育推進連絡協議会（地域教育「明日の風」）（会長：石井由己雄大月市長）、大月市剣道連盟（佐藤芳三会長）、上野原市剣道連盟（村上晃久会長）、富士・東部教育事務所（大場卓所長）は、10月28日（日）に大月市勤労青年センターにおいて、「平成30年度 第14回 伊藤知治教士八段剣道教室」を開催しました。

大月市出身の伊藤知治先生は剣道八段・居合道八段・逮捕術八段で警視庁名誉主席師範であります。また企業や大学の剣道部師範として後進の指導にあたられています。同教室は「子どもたちとの稽古・ふれあいをとおし、剣道に精進すること、技や生き方に目標をもつことができる機会とする。」ことを目的に、今年で14回を数えます。当日は、大月市・上野原市などから豆剣士や中学校・高校の剣道部員、関係者を合わせて約140名が参加しました。

伊藤教士はあいさつの中で、「剣道は何歳になってもできます。頑張って続けて下さい。人間は、『五つの戒』を心の中に持っていなければなりません。自分の弱い気持ちや邪念を断ち切る。これが剣道の大切なことです。剣道の特性を日常生活に活かして、目標と希望をもってがんばって欲しい。」と話されました。参加者は約2時間にわたり、剣道に臨む心構えや実技練習についてきめ細かい、熱心な指導を受けました。

全体指導のあとに行われた、代表児童生徒との手合わせでは、伊藤教士の気迫と剣士達の気合いの入った姿勢に、会場全体は張り詰めた空気に包まれました。剣道教室に参加した剣士や保護者からは、「剣道の基本の大切さや、剣道をする上での心構えを再認識する事ができた。ただ、剣道の技術を向上させて強くなるのではなく、日常に活かしかしていかなければいけない事を胸に刻み、努力していきたい。また、先生の『五つの戒』の言葉を忘れずに人間性も普段の稽古や日常生活の中で成長させていきたい。」「動作や作法の基本的なことや動きの部分でも初心者にもわかりやすく教えてください、とても分かりやすかったです。」等の感想が寄せられました。剣士達は、指導を頂いた稽古を振り返りながら充実した一日を過ごしていました。



## 山梨ことぶき勸学院レポート

～勸学院祭・若者との交流～



10月23（火）、コラニー文化ホールにおいて「いつまでも 学ぶ楽しさ 笑顔の輪」のテーマのもと「第32回山梨ことぶき勸学院祭」が開催されました。勸学院祭は、「山梨ことぶき勸学院生の日常の研鑽や成果の発表、及び若い世代との交流や芸術文化に触れることを通し、心豊かな学院生活の向上に資すること」をねらいとしています。

当日は、各地域の教室による合唱・ダンス・舞踊・ミュージカル・寸劇・群読等の舞台発表や勸学院卒業生による朗読が行なわれました。各教室とも趣向を凝らし、場内を笑いに包み込んだり、感嘆させたりと、それぞれの特性を生かすとともに日常の取り組みやその成果が十分に発揮されていました。



また、異世代交流として参加した甲府第一高等学校の「箏曲部」の生徒のみなさんによる、箏の演奏がありました。美しい箏の音色で会場が包まれ、参加者を魅了しました。発表のあと、勸学院生の代表がステージに上がり、箏の弾き方を教えてもらい、「川の流れるように」を一緒に演奏しました。



## 児童生徒連絡協議会の取り組み !! 各地区の『首長さんと話す会』

### 【富士吉田市 市長さんと話す会】



富士吉田市児生連では、10月30日(火)に富士吉田市環境美化センターにおいて、第46回「市長さんと話す会」を開催しました。富士吉田市内の小中学生と高校生ら約32名が参加。「美しい富士山の街『富士吉田』で、ふれあいの輪を広げよう」をテーマに、「同じ富士吉田市に住む児童・生徒として絆を深めること」「富士吉田市民として自覚を持ちながら、より良い街を創造していくこと」について、市長さんをはじめ行政の方々と交えて、活発な意見交換が行われました。参加した児童・生徒達は、この会を通して、自分の住む富士吉田市についてさらに深く考え、地域の活動への積極的な参加が必要であることを確認しあいました。最後に市長さんからは、市政に対する熱い思いやこの会の感想が話されました。

### 【富士河口湖町 町長さんと語る会】



富士河口湖町児生連では、10月30日(火)に富士河口湖町役場において、「町長さんと語る会」を開催しました。当日は、各学校の児童会・生徒会代表者ら約40名が参加。「アイスブレイク」で緊張をほぐした後は、「いつまでも住み続けたい、住みたくなる町～私たちにできることから地域へ～」をテーマに活発なグループ討議が行われました。討議で話し合われたことがグループごとに発表されると、参加者は興味深く耳を傾けていました。その後、児童・生徒からの意見の共有とまとめがされると、町長さんから「みなさんの発想がすばらしい。出された意見は、これからの町づくりにいかしたい。」との話がありました。参加者からは「町を知り、考えることができた。」「今日出された6つの目指す町の実現に向けて、自分たちも小さなことからでも行動していきたい。」などの感想が聞かれました。

### 【都留市 都留リーダーサミット】



都留市児生連では、10月30日(火)に都留市役所大会議室において、「都留リーダーサミット」を開催しました。当日は、都留市内の小中等学校の児童会・生徒会代表者ら約36名が参加し、「みんなでつくろう都留の未来」のテーマにもとづき、話し合いが進められました。市長さんより、小中高生らしい、豊かな発想でやる気と熱意をもって話し合いをして欲しいとの言葉をいただきました。3グループに分かれての熟議では、各グループにアドバイザーやファシリテーターも加わり、「今ある都留市の魅力」と「都留市につくりたい新しい魅力」について、一人ひとりが真剣に考え意見の交換を行いました。最後に各グループでの話し合いの結果をまとめて発表し、これからも都留市の未来について、想像・発信していくことが確認されました。

## 地域連携 高齢者宅の草取り・窓ふき・清掃活動 富士北稜高等学校「在宅訪問活動」



県立富士北稜高等学校(羽田孝行校長)では、富士吉田市社会福祉協議会の協力を得て、市内の一人暮らしや要介護の高齢者のお宅を訪問し、奉仕活動を行いました。

この活動は、勤労体験を通して思いやりの心を育み、社会福祉に貢献していこうとする自覚を高めることを目的に実施しています。地域に根ざした活動として、開校当初より行われており、今年で15回目となります。

今回は、1～3年生の参加希望者約50名が10軒に分かれて、敷地内の草取りや木の枝打ち、窓ふきやお風呂場・台所の清掃等を行いました。作業終了後は、高齢者の方の話をうかがうなど交流を深めました。

在宅訪問を受けた高齢者の一人は「生徒のみなさんが一生懸命してくれるので本当に助かります。これだけやってくれて嬉しいです。」と笑顔で答えていました。また、参加した生徒は「地域のために貢献できないかと考えて参加しました。少しでも役に立てたら嬉しいです。」「お年寄りの方と接する機会がないので参加しました。参加して良かったです。」と話していました。生徒にとっても高齢者の方から様々な人生経験や生きる知恵を教えて頂く貴重な経験となりました。

